

第 43 回生活科学系コンソーシアム会議議事録

1. 日時：2025 年 9 月 10 日(水) 17:00～18:10

2. 場所：オンライン会議（Zoom）

3. 出席者（敬称略）

構成学会 12 学会 13 名

国際服飾学会	新實 五穂（連絡担当者）
生活経済学会	大藪 千穂（会長）、倉田 あゆ子（連絡担当者）
日本衣服学会	田中 早苗（連絡担当者）
日本家庭科教育学会	中西 雪夫（連絡担当者）
日本健康心理学会	山薦 圭輔（連絡担当者）
日本消費者教育学会	大藪 千穂（会長）
日本食品衛生学会	石井 里枝（会長）、河野 通宣（連絡担当者）
日本食品科学工学会	上蘭 薫（連絡担当者）
日本纖維製品消費科学会	森下 あおい（会長）
日本調理科学会	飯田 文子（連絡担当者）
日本保育学会	上垣内 伸子（連絡担当者）
服飾文化学会	伊藤 瑞香（連絡担当者）

生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会委員 9 名

阿部 栄子 大藪 千穂 小川 宣子 佐藤 裕紀子 重川 純子 守隨 香 杉山 久仁子
宮崎 陽子 宮野 道雄

欠席者

構成学会 3 学会

日本家政学会 日本健康医学会 日本健康科学学会

家政学分科会委員 池田彩子

4. 配布資料

資料 1 出席者名簿

資料 2 第 18 回生活科学系コンソーシアム総会 議事録（案）

資料 3 第 14 回生活科学系コンソーシアムシンポジウム（12 月開催）について

資料 4 第 17 回博士課程論文発表会スケジュールについて

資料 5 第 17 回生活科学系博士課程論文発表会のお知らせ

守隨副会長の司会のもと、審議に先立ち、議事録は河野委員（日本食品衛生学会）が作成することが伝えられ、資料 1 に基づき出欠確認と自己紹介が行われた。

5. 議題

(1) 生活科学系コンソーシアム第18回総会議事録(案)の承認(資料2)

杉山会長より、資料2に基づき説明があり、一部書式を整えることを確認し承認された。

(2) 第14回生活科学系コンソーシアムシンポジウムについて(資料3)

- ・杉山会長より、資料3に基づき説明があった。

日本学術会議の公開シンポジウムという形とし、生活科学系コンソーシアムとの共催にしたいというのが本日の提案。第26期日本学術会議の分科会では、子ども家庭庁の子どもまんなか政策を受け、子どもまんなかの視点で子育て・子育ちの教育における課題を報告としてまとめることを検討している。内容としては、昨年度のシンポジウムで日本保育学会の大豆生田先生、日本家政学会の定行先生からご講演をいただきことを受けて、他の分野でも子育ての視点で講演できる方がいないか検討した。そこで奥山千鶴子氏、明和政子氏、露久保美夏氏（日本調理科学会からご推薦）らの名前が挙がった。

- ・質疑応答にて、開催は現時点ではオンライン、（資料3の）4の講師については、日本家庭科教育学会にも相談して決めたいこと、その際には分科会の関係者と中西先生で相談し、進めやすい方法としたいとの説明があった。また、日本学術会議と生活科学系コンソーシアムの共催ということであれば、日本学術会議内で近接分野の他分科会にもお声がけし、協力を仰ぐことも考えらえるのではないかとの意見があった。
- ・以上の結果、日本学術会議との共催、および内容について承認された。

(3) 第17回博士課程論文発表会について(資料4、資料5)

- ・杉山会長より、資料に基づき説明があった。

基本的な開催スケジュールは例年を踏襲したい。開催方式については、オンラインだと全国から参加できることと、ハイブリッドだと遠方から参加する方の交通費支払いも難しいので、3月の博士課程論文発表会はオンラインでよいのではないかなどの話が総会でも出た。

日程はまだ決まっていない。通常3月20日前後で行ってきた。候補日を近日中に連絡担当者に送るので、フォームから会長および連絡担当者の回答をお願いする。

発表希望者が多かった場合は、選考するか二部屋方式にするかは検討することとなる。

座長をそれぞれの学会からお願いする（学会の会員でもよい）。

- ・以上の結果、開催方式はオンライン、基本的なスケジュールは例年を踏襲すること、近日中に日程調整を行うことが承認された。

(4) その他

- ・特になし
- ・守隨副委員長より構成学会に、メールでもよいのでコンソーシアムで検討したい内容や意見などをいただきたいと呼びかけられた。

5. 報告

(1) 構成学会から

- ・12 学会より 2025 年度の活動報告及び予定、2026 年度の予定について報告があった。

(2) 生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会委員から

- ・分科会では第 26 期中に、子育て・子育ちの視点で報告をまとめる作業を進めている。特に学校教育、生涯教育の充実における課題などの内容をワーキンググループで検討しているとの報告があった。

次回会議日程：公開シンポジウム開催日程決定に伴って決定する予定である。

以上